

基本的な方向性

少子高齢化・人口減少社会や旅行ニーズの変化等の中、**自然公園制度は大きな転換期**。**国立公園満喫プロジェクト3年間の成果**を踏まえ、国立公園の最大の魅力である**自然そのものを保護しつつ、地域資源としての価値を活用・向上させる「好循環」を生み出す政策に転換**していくことが重要。

→地域の特質に応じた**「活用の方針」**を打ち立て、**利用を適切にマネジメントおよびコントロール**しつつ、世界水準の**「質」の高い自然を満喫できるツーリズム**を促進する。これにより、**地域社会の発展とインバウンド推進にも寄与**。

また、**自然公園の管理体制の充実強化、気候変動への適応、地域循環共生圏の創出**を提言。

国立・国定公園の利用環境の充実

- (1) 国立・国定公園のテーマやストーリーを踏まえた望ましい利用のあり方の検討のため、地域とともに**「利用のゾーニング（区域分け）」**の検討が必要。
- (2) 従来の利用施設整備に加え、**公園計画に基づき、自然体験プログラムの促進等のための事業計画**を新設。受入体制整備や自然体験プログラムの提供・開発促進等を国・自治体及び民間団体が実施。
- (3) 地域の**「自主ルールでは対応しきれない行為の規制（動物への餌付けやドローンの飛行等）」**より良い**「利用環境の維持のための利用調整地区」**
- (4) **「利用者負担の仕組みづくり」**の検討。



公園事業・集団施設地区の再生・上質化

- (1) 集団施設地区など公園利用の拠点となるエリアの**「廃屋化・機能低下が進行」**。**「地域とともに、エリアの再生・上質化のためのマスタープランを作成」**し、廃屋撤去、新たな投資、機能充実、景観デザインの統一等を推進。
- (2) 新たな廃屋化の防止のため、中小企業庁等と適切な連携体制を構築し、**「公園事業者の事業再生、円滑な事業終了の支援等」**。
- (3) 権原の譲渡や所有・経営・運営の分離に対応するため**「権原の譲渡の手続き新設と地位承継、措置命令」**。



イメージの共有

国立公園訪日外国人利用者数の推計について

参考資料2

- 当推計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査(全国調査)」の調査票情報を利用し推計したものの、具体的な推計手順は以下のとおり。
①訪日外国人消費動向調査の「訪問地選択コード」のうち、国立公園内の観光地等を抽出(680の訪問地選択コードのうち139を抽出)
②訪日外国人消費動向調査における訪問地ごとの選択率(当該訪問地の回答数/有効回答数)を算出。
③訪日外国人の母集団構成におよぼすため、上記②について国籍・地域別及び出国港別ウェイトバックを実施(平成29年以前は国籍・地域別ウェイトバックのみ)。
*日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」及び法務省「出入国管理統計」をウェイトとして使用。
④JNTO「訪日外客数」の総数に、上記③のウェイトバック後の選択率を乗じ、推計。

Table with columns: 公園名, H27, H28, H29, H30, H31/R1. It contains detailed visitor statistics for various national parks, including counts and percentages for each year, along with trend indicators like '前年増減' and '前年減'.

Table titled '(参考)推計外国人延べ宿泊者数(千人)' showing estimated foreign tourist overnight stays in thousands for years H29, H30, and H31/R1. It includes columns for counts and percentage changes from the previous year.

---車ごとの上位10公園
---参考値 +3

(訪日外国人利用者数の推計値についての注意点)

- *1 推計実利用者数: 当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用して1人と数える。また、合計(選定された8公園)及び合計(各公園計)は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計(実利用者数)は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。千人単位で四捨五入している。
*2 95%信頼区間: 同じ母集団の標本調査を100回行うと、そのうち95回はこの区間の中に母平均が含まれる。
*3 国立公園調喚プロジェクトにおいて先行的・重点的に取組を進めるとされた公園: 阿索摩周国立公園、十和田八幡平国立公園、日光国立公園、伊勢志摩国立公園、大山隠岐国立公園、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾国立公園、慶良間諸島国立公園。
*4 訪日外客数全体・出発: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」
*5 標準誤差率が30%以上の公園については、サンプル数が少なく信頼性が低いので、参考値とする。取り扱いは十分注意し、転載や二次使用する際には、信頼性の低い参考値であることを明記し、その旨を理解して使用すること。(特に、「訪日外国人消費動向調査」の調査対象空港が少ない場所においては、推定率が低くなる可能性がある。)

※平成29年以前の「慶良間諸島国立公園」及び「やんばる国立公園」は、「訪日外国人消費動向調査」の訪問地選択コードに該当する地点が無かったため、推計対象外。
※平成27年の「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」「南アルプス国立公園」、平成29年の「尾瀬国立公園」「小笠原国立公園」及び平成30年の「尾瀬国立公園」は、標本数が0(欠損)のため推計不可として扱った。
※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

(推計外国人延べ宿泊者数(参考)についての注意点)

- ※H29~H30の推計値については、対象とする標本及び推計手法の精度によりR2に修正を行った。
※延べ宿泊者数: 当該国立公園内の宿泊施設の利用者数の合計人数(子供や乳幼児を含む)。1人の利用者が複数の宿泊施設を利用すると重複して計上される(例: 1人の利用者が3つの施設を利用すると3人泊)。
※「尾瀬国立公園」及び「小笠原国立公園」は、標本数が0のため推計不可として扱った。
※この推計は、「宿泊旅行統計調査(観光庁)」のデータを利用し推計したもので、推計にあたっては宿泊旅行統計に用いられている母集団各県内、国立公園区域内に含まれている宿泊施設を抽出して実施した。このため、特に国立公園区域内に存在する宿泊施設が少ない国立公園については、地域の宿泊実態との誤差が大きくなる可能性がある。
※各宿泊施設が公園内にあるかどうかは「CSVアドレスマッチングサービス」を用いて判定している。サービスの精度及び各宿泊施設の宿泊旅行統計調査の調査情報の詳細によって、正しい位置を示していない宿泊施設もある。(正しい位置を示すことのできない宿泊施設については、町村レベルもしくは審判レベルの代表地点に位置するものとして扱われている。)
※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

スタート時の課題指摘

【第1回】

- ◆ 日本の国立公園に対する世界的な認知度が不足している。
- ◆ 観光の視点からの有益な国立公園に関する情報が国から発信されていない。
- ◆ 施設が観光客目線で整備されていない。
- ◆ 奥深さを知ってもらうのにガイドが不可欠。
- ◆ 個人旅行者受入の交通手段その他環境整備が不十分。

【第2回】

- ◆ 受入地域の推進部隊があるのか、実際にできるか、地域の持続的な予算確保できるかといった視点も重要。

【第3回】

- ◆ 奥行き論、キャリングキャパシティの視点が必要。
- ◆ 資金がどのようについてくるか、どのように現金化するか考えるべき。

【第4回】

- ◆ 解説版が不足、内容も外国人には難解。
- ◆ トイレ等の設備や景観を楽しんでもらう工夫ができていない。
- ◆ 富裕者層向けも含め利用者に応じた宿泊施設の多様性に乏しい。
- ◆ キャンプ場を観光施設に変えていくべき。
- ◆ 廃屋が著しく景観を害している。

満喫プロジェクトの基本的な視点

- ① 最大の魅力は自然そのもの
- ② 暮らしや文化とともにある国立公園
- ③ 体積で考える
- ④ 多様なニーズに対応した楽しい国立公園
- ⑤ 広域的な視点で考える
- ⑥ 利用者目線から現場を改善する
- ⑦ サステナビリティの視点を取り入れる

満喫プロジェクトの成果

国立公園を訪れる外国人訪問者、泊数、消費額、満足度の増加／向上

- 国立公園における外国人利用者数は年々増加。2018年は全国の訪日外国人旅行者数の伸び率を上回る伸び。2019年1～9月は、韓国等の影響により前年度同期比1%減。
- 満足度、支出額、宿泊数等の質の指標について、利用者に対するアンケート調査を実施
外国人で満足した割合は96.5%、2回目以上のリピーター率は14%（11公園2019年暫定値）
- 自然保護の役割を担いながらも、自然の魅力を生かして利用推進を図る自然公園行政の転換。
- 地域の経済効果につなげ国立公園を地域資源として関係者が改めて認識、利用が保全につながる仕組みづくりそのものや自然環境の価値の高まりによる、保護と利用の好循環に向けて前進（利用者負担による保全の仕組み作り（14事例））

1 外国人旅行者受入のための基盤整備の進展

- 屋外の案内解説板、ビジターセンター展示解説の多言語化（23箇所、整備率91%）
- ビジターセンター等の改修/新築（15箇所、整備率93%）、Wi-Fi整備（17箇所、整備率100%）、最新デジタル展示による理解促進（7箇所）
- トイレ洋式化（24箇所、整備率96%）、展望施設（2箇所、整備率67%）、歩道（16箇所、整備率94%）（※整備率は先行8公園の直轄施設における数値（R1年度工事中等含む））
- JNTOサイト内に国立公園サイト（英語）を設置し、同サイトへの誘導を実施（PV数 当初約6,000/月 → 現在約37,000/月）

2 コンテンツの磨き上げ、地域における受入体制の強化や景観の改善

- 国立公園のストーリー性を重視したコンテンツ造成及び販売支援による誘客強化
- ガイド等の人材育成や地域における一元の窓口の設置促進による受入体制の整備、ビジターセンターにおけるアクティビティ情報の発信
- 廃屋撤去（5箇所）、地域が一体となった利用拠点滞在環境の上質化（R1年度事業化）

3 多様な宿泊サービス充実、公共施設民間開放、民間との連携強化

- 宿舍事業あり方（H30.9）、分譲型ホテル等認可基準（R1.9）→ホテル進出の機運増大
- グランピングの導入促進（これまでに6事業者と連携）
- 環境省所管地の使用許可期間を3年から10年に延長（H29.10）
- 民間事業者によるカフェ等の案件形成（6箇所）、野営場の再整備～運営を民間一括実施
- オフィシャルパートナーシップ企業 75社、REVIC観光遺産産業化ファンド設立
- 二次交通改善の取組数 37箇所

4 プロモーション強化

- 国立公園統一マーク、ブランドスローガン、国立公園フォントによるブランディング、これらを活かした国立公園の認知向上
- 旅行博や各種メディア等も用いた情報発信による認知向上

5 関係者との連携体制強化

- 多様な主体が連携して受入環境を整備、国立公園の魅力を向上。開始前にはなかった取組を数多く実施。

現状課題

- 「1000万人目標」に向けた更なる取組。
- 人数の指標のみであり、質の指標は全体的な傾向に対応。個別の取組の効果を直接的に反映していない。
- 保護と利用の好循環の成果を上げるには地域における継続的な取組が必要。

取組進捗・手法等の蓄積

- 8公園における主要な利用拠点やアクセルト上の直轄施設への対応は概ね完了。今後、自治体、民間を含め、エリア一帯における多言語化等受入環境の充実が必要。
- 国立公園サイトの充実（利便性・コンテンツ拡充・多言語化（中国語対応）等）が必要。

継続取組

- 自然コンテンツに加えた文化資源等との連携も必要。
- 外客対応可能なガイド・インタープリターが不足。
- ビジターセンター等の人的な多言語対応が必要。
- 廃屋撤去、撤去後の新たな民間参入による魅力ある利用拠点再生は取組途上。

継続取組

- 新基準等による上質なホテル・旅館の増はこれから。
- ニーズに基づいた民間事業者の広がりによるグランピングの更なる拡大が見込まれる。
- 民間のサービス展開への継続的な金融支援が引き続き課題。
- オフィシャルパートナーシップの継続と具体的成果の促進が必要。
- 二次交通改善事例の継続的な蓄積が必要。
- 国立公園のブランディングと効果的なプロモーションによる国立公園の認知度向上は取組途上。
- デジタルマーケティングによるターゲットを絞った効果的・効率的な誘客促進が必要。
- DMOとの連携は取組途上。
- 関係者との連携体制の維持・継続が有効。
- 広域連携及び他の観光資源との連携など、目的地として選ばれるための重層的な魅力形成はこれから。

受入環境の整備

サービスの向上、プロモーション強化等

国立公園満喫プロジェクト有識者会議
委員名簿

<敬称略・五十音順>

【学識者】

ロバート キャンベル（国文学研究資料館長）

わくいしろう
涌井史郎（東京都市大学特別教授） ※座長

【観光関係者】

いしいたる
石井 至（株式会社石井兄弟社社長）

えざききく
江崎貴久（旅館海月女将、有限会社オズ代表取締役）

デービッド・アトキンソン（小西美術工藝社社長）

ほしのよしはる
星野佳路（星野リゾート代表）

【ジャーナリスト・ライター】

のぞえ
野添ちかこ（温泉と宿のライター）